

第2節 若者未来創出会議

(福島県東白川郡鮫川村)

上関克也 (一般財団法人自治研修協会 業務執行理事)

調査日 2023年9月28日(木) 13:00~14:30 鮫川村役場

調査先 鮫川村村づくり推進室

調査者 上関 克也

1. 鮫川村の概要

鮫川村(さめがわむら)は、福島県の南端、東白川郡の北東部に位置し、東は古殿町といわき市に接し、西は棚倉町と浅川町に、南は塙町と茨城県北茨城市に、北は石川町に接している。明治22年、赤坂西野村、西山村、赤坂中野村、赤坂東野村、石井草村、富田村、渡瀬村の7か村が合併して、鮫川村を構成し現在に至っている。



山脈丘陵が連なり、村の大部分は400mから650mの範囲にある。耕地は山峡に開け、丘陵部の緩傾斜地の多くは、採草放牧地に利用されている。

林野面積が9,782haと総面積の約4分の3を占め最も多く、農用地が1,770ha、宅地が56haなどとなっている。

主要幹線道路として国道289号が村の南部を横断し、349号が村を南北に縦走。車で白河市へ約45分、郡山市・いわき市へそれぞれ約1時間、福島市へ約2時間の距離にあり、首都圏へも3~4時間の位置にある。周辺には東北自動車道、常磐自動車道、東北新幹線、福島空港への高速交通体系も整備されている。

< 鮫川村の基礎データ >

面積 131.34 km²

2020 (令和2) 年国勢調査人口 3,049 人

2021 (令和3) 年度決算 (普通会計) 歳出総額 3,804 百万円

2021 (令和3) 年度財政力指数 0.17

(村HP等による)

2. 若者未来創出会議の経緯

村内の7つの行政区(旧村)でそれぞれ若者による青年会活動が行われてきたが、近年、活動が低迷し、青年会そのものが解散した行政区もあった。当時の村長は、村にとって村づくりのために青年会活動は大切であり、「地域づくりは人づくり」を実践していく必要があるとの認識であった。また、近隣の白河市に平成28年オープンしたコミュニティカフェ EMANON(高校生をはじめとした若者が交流を図る「まちのたまりば」)の活動や白河市長(鈴木和夫氏)の「意見を聴くだけではダメでいかに実現するか」が重要であるとの話などから、令和3年度において県のサポートを受けて人材育成事業として、村の将来は20代30代の若者が担い、聴くだけ、意見を述べるだけではなく、いかにそれを実現するかという観点に基づき開始したものである。

コロナ禍の中で実施することに懸念もあったが、事業の実施にあたっては、令和元年度に福島県自治研修センターの政策研究会で講師を務めていた古川柳蔵氏(東京都市大学教授)と三橋正枝氏(東北大学特任教授)をファシリテーターとして依頼した。

3. 若者未来創出会議の目的

将来にわたって鮫川村を維持していくためには、20代30代の若者が村政に興味を持ち、「むらづくり」についての当事者意識や、様々な視点から村政に対しての提言ができる“人材”を育成していく必要があることから、この会議は、村民が主体となって組織される地域づくり団体の育成を目的として設置したものである。

村のHPによると若者創出会議を次のように紹介している。

鮫川村の10年後はどうなっているだろう…
少子高齢化、担い手不足、遊休農地の増加など、この先不安になることも少なくない状況です。
こうした地域課題を受け入れたうえでそうならないために「今」私たちができることは何でしょうか？
令和3年度から始まった若者未来創出会議は、そんな若者たちが仲間とともにアイデアを出し合い、楽しみながら行動を起こす場です。
私たちの足元には、まだまだ使われていない資源や可能性が眠っています。
今後、アイデアを実現させていく若者たちの行動にご期待ください！

長期的な目標としては、事業を継続していく中で、活動を経験した人材が地域のリーダーとして地域づくり活動に参画することによって、村民主体のむらづくりの根幹が形成され、持続的な活動が実施されていくよう事業展開を図っていくものとしており、人づくりと同時に地域資源を見直すことで、村の資源に新

しい価値を見出すなど、グリーンジョブの創出支援並びに共創教育の場づくりを行うとしている。

参加する若者に、村の強み・弱みを指摘してもらい、強みを生かす・弱みを克服することを検討してもらうとともに、自らが好きな事を地域に生かす取り組みを考え実践していただき、地域課題に向けた村への解決への提言を期待している。

なお、村の会議への費用負担は、ファシリテーターに係るもののみで、活動に係るものは、参加者が負担している。

4. 会議の参加者と会議等の開催状況

(令和3年度)

令和3年度、村の広報誌で参加者を募集した。当初は20人位の参加を期待していたが、一部の対象者に声をかけて20人を確保し、3部会（仕事をPR、イベント、地域資源を発掘）を設置した。開催を重ねるうちに出席者は9人程度となった。

開催日 いずれも土曜日の18:00~20:00

8月7日、28日、9月18日、10月9日、23日 延べ41人参加

若者の未来を描くチカラ

若者未来創出会議

9月18日に村公民館大集会室で若者未来創出会議が開催されました。村の20代~30代の若者20名が鮫川村の未来のために何ができるかを考えました。東京都市大学教授の古川柳蔵氏と東北大学大学院学術研究員の三橋正枝氏が講師として招かれ、将来想定される二酸化炭素排出量の制限などの、環境制約のもとでどのように未来を描いていくかなど、バックカスティング手法を中心に説明がありました。



真剣な表情で会議に参加しています

(広報さめがわ令和3年10月)

(令和4年度)

令和4年度は、3年度のコアメンバーに新たに4名が新規で加わった（募集はしたが、役場で声かけはしていない）。年度当初は、前年度の3グループを継続したが、メンバーは結構多忙で会議出席が難しい場合もあり、LINEで意見交換や必要な連絡をとった。

若者未来創出会議2022

2年目に入り、新たに4人の仲間が加わる

5月21日に村公民館大集会室で第1回「若者未来創出会議2022」が開催されました。今回は昨年まとめられた3チームの発表があり、村議会議員や教育委員の聴講もありました。新たに4名のメンバーが加わり「村のため、家族のために何か自分ができることを見つけたい」「若者が活発に発言できる場が欲しい」と前向きな意見を出しました。会議は全12回、随時メンバーを募集していますので総務課企画情報係へ連絡してください。☎49-3111



第1回若者未来創出会議2022の様子

(広報さめがわ令和4年6月)



年齢や職種を超えて意見を交わす参加者たち

若者たちの意見が飛び交う

第2回若者未来創出会議2022

6月4日に村役場正庁で第2回若者未来創出会議2022が開催されました。参加者は8名で、2グループに分かれてワークショップを行いました。グループからは「朝日山などの自然をテーマにしたイベントや廃材を使った林業の仕事」「村の暮らしをありのままに生活してもらおうツアー」などの意見が出されました。参加者は年齢も職業も異なる中で、積極的に意見を交わしていました。第4回は7月2日(土) 役場正庁で開催されます。

(広報さめがわ令和4年7月)

若者会議の想い

イベントは、まずは自分たちで楽しめることが大切です。鮫川村を楽しむために地域資源を探し、地域資源の中から楽しそうな要素を自分たちで創り出し、その楽しさを自分たちで発信するためにイベントを実施します。

自分たちで楽しむことが出来ればその日やって終わりではなく“村民みんなが楽しめるイベント”にすることができます。

若者会議のメンバーで真剣に考え、自分たちの能力や得意分野を生かすことで、自分たちの地域での役割に改めて気付くことができます。イベントの成功は目標の1つですが、最終的なゴールではありません。

また、まわりにも「自分たちに何ができるのか」子どもたちには、「楽しんでいる大人たちが意外にいっぱいいるんだな」と感じてもらえれば良い。

自分たちが楽しんでいる姿を後世に継承したい、そんな想いが詰まっています。

もしこの会議に共感してくれる人がいれば、ぜひ参加して仲間になってください。

(広報さめがわ令和4年11月)

第4回(7月2日)では、鹿児島県沖永良部島の若者とオンラインで地域の資源、魅力等について互いに意見交換を行った。これを受けてイベントを企画し、

11月3日（木）にロゲイニングを実施した。このイベントは、まず、自分たちが楽しめるイベント、外向けではなく自分たちのため、それが村全体に浸透していくことを期待という観点から行われたものである。

開催 令和4年5月から12月にかけて計12回 延べ69人参加

気付き始めた若者たち

人財育成は、すぐ目に見えて成果があらわれるものではないと決まっています。成功体験を積み重ね、継続していくことが大切です。若者会議を通して、メンバーは村の魅力に自ら気付き、それを伝えたいと奮起しました。

村の魅力を自ら発信し、住民を巻き込んだ事業の展開を経験することは、また新たな気付きや発見に繋がるはずで、

まずは何事も経験。今は挑戦の時期で段階を踏んでいます。失敗を恐れる必要はありません。失敗は成功するまで続ければ失敗ではないからです。

今後、村の魅力に気付き、若者が一人でも多く活動し、村のあちこちで自分の気持ちを発信していく。そのような波が大きくなっていくことが村にとってプラスになります。

若者会議はまだ始まったばかり、10年後の鮫川村のことを考えるこのメンバーを、村民全員で応援しましょう。

（広報さめがわ令和4年11月）

（令和5年度）

村としては、自立的な活動に移行することを目指していたことから、本年度からは会議のメンバーからリーダーと副リーダーを決めて自らが主体的に活動する体制とした。前年度までは、すべての会議にファシリテーターは参加していたが、本年度は参加しない場合もあるとのことである。



会議に臨む公共交通協議会員

今年で3年目!

若者未来創出会議2023始動

5月19日に役場正庁で若者未来創出会議2023の第1回会議が開かれました。この会議は今年で3年目を迎え、村に住む20代～30代の若者たちが、自分の住む村のために何かできることはないかと発起して集まっています。昨年度までは役場が事務局となり舵を取っていましたが、今年は会議のメンバーからリーダーと副リーダーを決め、活動内容を決めるために意見を出し合いました。ますます楽しくなりそうです。

（広報さめがわ令和5年6月）

調査時点（令和5年9月末）までに会議を4回開催しており、昨年度に続き活動の一環として秋以降イベントを企画実施することとし、令和5年11月5日（日）に昨年より規模を少し拡大して実施された。

若者未来創出会議

ロゲイニング in さめがわ 2023

11月5日に若者未来創出会議主催の「ロゲイニング in さめがわ 2023」（館山：スタート ゴール：村役場）が開催されました。

参加者は村内外から12名、個人・夫婦・友人グループなどさまざまな形での参加を受け入れました。ロゲイニングは設置されたチェックポイントを制限時間内により多く回るスポーツです。

去年はチェックポイントが館山に集中していましたが、今回はチェックポイントを強滝や富田薬師堂などにも設置し、参加者が村内を周遊できるように工夫しました。チェックポイントへの移動は歩くか走るの2つしかありません。



両手を上げてゴールを喜ぶ参加者

足に自信がある参加者はスタートと同時に走り出し、遠くにあるチェックポイントに向かいます。年配の人や子ども連れの家族などは、館山や近くのチェックポイントを無理なく周っていました。

参加者は全員が時間内にゴールし、役場正庁で村産の野菜を使った豚汁や焼き芋などがふるまわれ、最後に表彰式が行われました。

参加者からは「若い人のアイデアが素晴らしい」「イベント全体の雰囲気や和やかで参加して癒された」「次回があるならぜひ参加したい」などの感想が寄せられました。



表彰式後に参加者とスタッフで記念撮影

（広報さめがわ令和6年12月）

5. 村の役割等と若者未来創出会議のこれから

村の立場としては、若者が考えていることを少しずつでも具現化していくことが重要であり、若者の意見を否定せずに見守っていくことが大切と考えてお

り、村をあげてサポートしていく姿勢が必要と考えている。いつでも話し合いが行えるような場（自由に集まれるスペース）を提供することが必要である。

一方で、参加者が当初に比べ少しずつ減少はしているが、参加者が実際に楽しんで実施していくことを一番の目標としているから、当面は状況を見守っていききたい。参加者が責任をもって、自分たちが発した言葉やイベントを、自分たちで実現することによって、小さな成功体験を経験していただき、地域課題に対する解決策を自らが実施したり、それに基づく村への提言を期待している。

若者未来創出会議のようなソフト事業は、成果がすぐに花開くことはないと考えているが、地域の若者が地域を引っばっている地域は活気があるという認識に立ち、これからも、小さな取り組みを実施していきたいと考えている。また、このような組織は、立ち上げ当初は良いが時間の経過とともに活動が低迷することが多い。そこをどのように見守るかが重要であり、適切なサポートでいかに持続可能な形態変容をしていくかが鍵となると考えている。将来的に組織が自立自走するようになれば、村の政策等についても議論する場になり、住民の合意形成や意見の反映などがスムーズに進むようになると考えている。